

ホームレス高齢者のセルフネグレクト化要因に関する一考察
—自己防衛手段としての「拒否」—

藤掛研究室 14RB119 高桑郁子

目的：支援活動を通して、現在のホームレス高齢者の様相を明らかにする。また彼らが支援を拒む要因を明らかにし、その要因がセルフネグレクト化に関連していることを考察する。

方法論：構築主義解釈的アプローチにて、フィールドワークと参与観察、医療・福祉相談会のカルテデータ分析の実践。また半構造化インタビューを通して、解釈的現象学に基づき「語り」の分析を実践。

調査地域：東京都池袋地区

意義と課題：調査結果より、彼らが隔絶された世界の中で、人と距離間を保ちながら、安眠が困難な状態であることを明らかにした。また、医療相談会に来る 75.6%は 60 歳以上であり、ホームレス高齢者の支援への結びつきが若年層と比べると低いことを明らかにした。そしてホームレス高齢者の傾向をカテゴリー化し、それを基に、リテラシーの欠如とホームレスを捉える社会の眼差しが、支援を拒む要因になることを示唆した。そしてセルフネグレクト化していく背景には、幾つもの因子が複合的に絡み合い、当事者は<ミジメ>と<ホコリ>の狭間で揺れ動きながらも、生きる戦略として積極的な拒否と消極的な拒否を選択していることを示唆した。課題としては、拒否する要因の因果関係の精査と、ホームレスを捉える眼差しの歴史的変換を諸外国と比較しながら検証していくことである。